

I. 肺循環と凝固・線溶機能



杏林大学病院循環器内科教授 佐藤 徹 (Satoh, Toru)

THROMBOSIS and Circulation



§ 論文のポイント

- [1] 古くから肺動脈性肺高血圧症 (PAH) の解剖例において、血栓の存在を示唆する肺動脈細動脈の再疎通像が 20 ~ 60% の頻度で認められていた。
- [2] PAH では凝固能の亢進が認められている。
- [3] PAH では線溶能が低下している。
- [4] PAH では血小板が幼若化し、生成が亢進し、活性化されている。
- [5] PAH ではトロンボキサン A₂ が増加、NO と PGI₂ が減少している。
- [6] PAH の易血栓性は、原因か結果は現状でははっきりせず、今後の検討が待たれる。

§ キーワード

肺動脈性肺高血圧症 / 凝固能亢進 / 線溶能低下 / TF (tissue factor) / MPV (mean platelet volume) / トロンボモジュリン (thrombomodulin) / トロンボキサン A₂ (thromboxane A₂)